

Contents

- 02 目次
プロローグ Vol. 12
- 04 特集 JICAの仕事
プロジェクトはこうして動く
- 06 プロジェクトが生まれるまで
築いた信頼が未来へつながる
- 12 プロジェクトは、こうして進む!
力を合わせ、成果を上げる
- 14 プロジェクトを評価
成果と教訓を求めて
- 16 もっと知りたいJICAの仕事
- 20 現場で相手国に寄り添う海外拠点の仕事
チュニジア事務所、ペルー事務所
- 24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 11
モンゴル
- 26 世界につながる教室⑥
世界が認めた授業
- 28 地球ギャラリー Vol. 133 ニジェール共和国
写真・文 ●デコート・トヨサキ・アリサ ジャーナリスト
千年続く塩の道
- 34 教えて! 外務省
知っておきたい国際協力⑬
- 36 JICAイベントカレンダー
- 38 読者の声、プレゼントほか
- 39 JICA PRESS
- 40 わたしが見つけたSDGs Vol. 13



各国で活躍するJICA職員。写真は、コンゴ民主共和国、グアテマラ、チュニジアの各事務所の職員たち。



信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust

プロローグ Vol. 12 「JICAマン」は 今いずこ

文・杉下恒夫

偏見、差別を含む表現を是正するポリテイカル・コレクト
ネス思考が広まったことで、昨今はポリスマンがポリス・オ
フィサー、ビジネスマンがビジネスパーソンなどと呼ばれる。
マンだけが構成員ではないというジェンダー的配慮からだ。

こうした観点から現在では不適切な言葉となるが、私が政
府開発援助(ODA)を専門に取材を始めた1980年代、
開発援助に関わる人たちの間で「JICAマン」という言
葉がよく使われていたので、ここではあえてこの言葉を性別
を問わず使いたい。当時のJICA(国際協力事業団)職
員を指す言葉だった。

JICAマンには、どのような隠喩があったのか。記憶
を頼りに回想してみると、途上国で働く国際派の政府系法人
職員に、「律儀」とか「生真面目」といったイメージが重なっ
ていたように思う。途上国の開発を支援する事業の印象から
「滅私」「夢想的な人」といった含意もあっただろう。事実、
私が接したJICAマンもこういったタイプの人が多かった。

今でも忘れられないJICAマンがいる。89年、日本の
ODA実績が世界一となり、マスコミのODAに対する関
心が一気に高まった。私が勤務していた新聞社でもODA
特集をすることになり、私はインドネシア担当となった。
ODAの無駄を省き、より効果的執行を促すというのが記
事の主題だったから、取材は問題がありそうな案件を探り当
てることに注力した。

出張前にODAに批判的な大学教授やNGOの方々に会
い、旅行カバン一杯にネガティブ情報を詰め込んで
JICAジャカルタ事務所を訪れた。取材を申し込んだプ
ロジェクトは、いわば曰くつきのものばかりだから、対応
した職員は最初から私の意図を見抜いている。しかしなが
ら、申し込んだプロジェクト全部の取材が許可され、彼は
繁多な業務の中、各地の取材に同行してくれた。それば



イラスト●中村知史

りか、求める資料をすべて提供し、面談を希望する人すべ
てに会わせてくれた。

そんな彼との旅の中、素直な目でJICA事業を見てい
ると、もちろん課題もあるが、多くの事業は地元の人に喜ば
れ、感謝されていることが見えてきた。ODA批判記事を書
くつもりで乗り込んだ私は、すっかりODA支持者に変
わっていたのだ。典型的なJICAマンの律儀さ、生真面
目さに打たれて、私は文字通りミイラ取りがミイラになっ
て日本に帰ってきた。

さてその後、JICAマンという言葉はどうなったか。
最近、聞くことはめったにない。もう死語に近いのだろう。
2003年に民間から緒方貞子さんをリーダーに招聘した
ことなどで、JICAの容相が変わったことが一つの原因
だ。国際協力銀行(JBIC)のODA部門が統合され、
08年に新JICAが誕生したこともひと押しになったのか
もしれない。

今日のJICA職員に、JICAマンといういささか垢
抜けしない名称は相応しくないだろう。現在のJICA職
員には、「切れる」「スマート」といった言葉が浮かぶ。世界
を舞台に颯爽と職務をこなす彼らに相応しい修辞だと思っ
て、「冷徹」「官僚的」というイメージは付加してほしくない。

JICAマンと呼ばれた人たちが持っていた「泥臭く行
動して人を愛する心」は、変え難い日本のODAの脊柱で
あり、組織の葉脈となって生き続けてほしい。JICAが
掲げる「信頼」という標語は、JICAマンの葉脈が生き
ていてこそ、現実のものとなる。

杉下恒夫(すぎした・つねお)

読売新聞編集局選任部長、茨城大学大学院教授、JICA客員専
門員などを経て2009年から国際開発機構(FASID)理事長。国際
協力センター(JICE)評議員、協力隊を育てる会理事など兼務。